

1

I am ~ . You are ~ .

◆指導ページ P.2 ~ 7◆

【主な学習内容】

- be 動詞(am / are)の文→主語の違いによる be 動詞の使い分けを学習する。
- 冠詞(a / an)→冠詞の意味と用法を習得する。
- be 動詞を使った否定文・疑問文。

学習内容	補足・留意事項など
<p>① I am ~ . / You are ~ . の文</p> <p>☆ be 動詞の文</p> <p>① 主語が I(私)のとき… be 動詞は am を使う。</p> <p>② 主語が You(あなた)のとき… be 動詞は are を使う。</p> <p>☆ 「私は～です。」の文→ I am ~ .</p> <p>私は久美です。→ I <u>am</u> Kumi. 私 は 久美</p> <p>☆ 「あなたは～です。」の文→ You are ~ .</p> <p>あなたはグリーンさんです。→ You <u>are</u> Mr. Green. あなた は グリーンさん</p> <p>② a と an</p> <p>☆ 数えられる名詞・数えられない名詞</p> <p>① 数えられる名詞…形のあるもの・固定的なもの 例→少年・少女・先生・イヌ・机・卵</p> <p>② 数えられない名詞…形のないもの・形が決まっていないなもの 例→牛乳・水・紙・パン・愛など</p> <p>☆ 数えられるものが1つのとき、英語では a や an をつけて表現する。</p> <p>私は先生(教師)です。→ I am a teacher. あなたはアメリカ人です。→ You are an American.</p> <p>☆ 冠詞の意味・用法</p> <p>① 「1つの」という意味で、日本語には訳さないことが多い。</p> <p>② 数えられる名詞の場合→名詞の前に a [an] をつける。</p> <p>③ 数えられない名詞の場合→名詞の前に a [an] はつけない。</p> <p>④ 固有名詞の場合→名詞の前に a [an] はつけない。</p> <p>③ I am ~ . / You are ~ . の否定文・疑問文</p> <p>☆ 否定文「～ではありません。」→ be 動詞のあとに not をおく。</p> <p>① 主語が I(私)のとき… I am not ~ . (私は～ではありません。) 私はトムではありません。→ I'm [I am] not Tom.</p> <p>② 主語が You(あなた)のとき… You are not ~ . (あなたは～ではありません。) あなたはグリーンさんではありません。→ You aren't [are not] Mr. Green.</p> <p>☆ 疑問文「あなたは～ですか。」→ be 動詞を主語の前におく。</p> <p>○ be 動詞 are を主語の前に出して、文末にクエスチョンマーク(?)を付ける。</p> <p>You <u>are</u> a teacher. → Are you a teacher?</p> <p>☆ Are you ~ ? への答え方→主語を I にして be 動詞は am を使う。</p> <p>はい、そうです。→ Yes, I am. (この I am は短縮形にできない。) いいえ、ちがいます。→ No, I am not. No, I'm not. (短縮形 I'm を使った場合。)</p>	<p>●「～です」という意味を表す be 動詞は、主語に応じて語形が変化し、その前後の関係を=(イコール)で結ぶ働きをすることを理解させる。</p> <p>・ I(わたし) = Kumi(久美)</p> <p>・ you(あなた) = Mr. Green(グリーンさん)</p> <p>●問題を解く際は、短縮形を意識しておくよう指導する。解答欄の数に応じて、もとの形で書くか、短縮形を使用するかを選択しなければならない。</p> <p>●短縮形は1語扱いとなる。</p> <p>●英語は、文の中でもものや人の数を明らかにする言語であることを教える。</p> <p>●数えられないもの(不可算名詞)には、「水」のような原材料としての物質や、「愛」のような概念的な言葉がある。生徒が理解しにくいのが1杯2杯、1枚2枚と数えられる「コップに入った水」や「紙」。どちらも実際には決まった形や大きさがいないため、数えられない名詞となる。ここでは、形が決まっいて数えることのできるものには a や an をつけることが理解できればよい。</p> <p>●中学で学習する語のうち、a, an のつけ方に注意が必要なもの。</p> <p>・母音で始まっているでも発音が子音で始まる語は a をつける。 a university</p> <p>・hで始まっているでも、h を発音せず、母音で発音し始める語は an をつける。 an hour</p> <p>●not は「～でない」という意味を表す否定語であることを理解させる。</p> <p>●短縮形の使い方を理解できているか確認する。I'm not ~ . とは言うが、I am n't とはならない。</p> <p>●文の最後が上げ調子に読まれていたら、Yes, No で答える疑問文だと、すぐにわかることを理解させる。</p> <p>●Yes, No で答えることのできる疑問文は文末が上げ調子となるが、そうでない疑問文は下げ調子となる。what, who を復習する際にもう一度確認する。</p>
<p>② a と an</p> <p>☆ 数えられる名詞・数えられない名詞</p> <p>① 数えられる名詞…形のあるもの・固定的なもの 例→少年・少女・先生・イヌ・机・卵</p> <p>② 数えられない名詞…形のないもの・形が決まっていないなもの 例→牛乳・水・紙・パン・愛など</p> <p>☆ 数えられるものが1つのとき、英語では a や an をつけて表現する。</p> <p>私は先生(教師)です。→ I am a teacher. あなたはアメリカ人です。→ You are an American.</p> <p>☆ 冠詞の意味・用法</p> <p>① 「1つの」という意味で、日本語には訳さないことが多い。</p> <p>② 数えられる名詞の場合→名詞の前に a [an] をつける。</p> <p>③ 数えられない名詞の場合→名詞の前に a [an] はつけない。</p> <p>④ 固有名詞の場合→名詞の前に a [an] はつけない。</p> <p>③ I am ~ . / You are ~ . の否定文・疑問文</p> <p>☆ 否定文「～ではありません。」→ be 動詞のあとに not をおく。</p> <p>① 主語が I(私)のとき… I am not ~ . (私は～ではありません。) 私はトムではありません。→ I'm [I am] not Tom.</p> <p>② 主語が You(あなた)のとき… You are not ~ . (あなたは～ではありません。) あなたはグリーンさんではありません。→ You aren't [are not] Mr. Green.</p> <p>☆ 疑問文「あなたは～ですか。」→ be 動詞を主語の前におく。</p> <p>○ be 動詞 are を主語の前に出して、文末にクエスチョンマーク(?)を付ける。</p> <p>You <u>are</u> a teacher. → Are you a teacher?</p> <p>☆ Are you ~ ? への答え方→主語を I にして be 動詞は am を使う。</p> <p>はい、そうです。→ Yes, I am. (この I am は短縮形にできない。) いいえ、ちがいます。→ No, I am not. No, I'm not. (短縮形 I'm を使った場合。)</p>	<p>●not は「～でない」という意味を表す否定語であることを理解させる。</p> <p>●短縮形の使い方を理解できているか確認する。I'm not ~ . とは言うが、I am n't とはならない。</p> <p>●文の最後が上げ調子に読まれていたら、Yes, No で答える疑問文だと、すぐにわかることを理解させる。</p> <p>●Yes, No で答えることのできる疑問文は文末が上げ調子となるが、そうでない疑問文は下げ調子となる。what, who を復習する際にもう一度確認する。</p>
<p>③ I am ~ . / You are ~ . の否定文・疑問文</p> <p>☆ 否定文「～ではありません。」→ be 動詞のあとに not をおく。</p> <p>① 主語が I(私)のとき… I am not ~ . (私は～ではありません。) 私はトムではありません。→ I'm [I am] not Tom.</p> <p>② 主語が You(あなた)のとき… You are not ~ . (あなたは～ではありません。) あなたはグリーンさんではありません。→ You aren't [are not] Mr. Green.</p> <p>☆ 疑問文「あなたは～ですか。」→ be 動詞を主語の前におく。</p> <p>○ be 動詞 are を主語の前に出して、文末にクエスチョンマーク(?)を付ける。</p> <p>You <u>are</u> a teacher. → Are you a teacher?</p> <p>☆ Are you ~ ? への答え方→主語を I にして be 動詞は am を使う。</p> <p>はい、そうです。→ Yes, I am. (この I am は短縮形にできない。) いいえ、ちがいます。→ No, I am not. No, I'm not. (短縮形 I'm を使った場合。)</p>	<p>●not は「～でない」という意味を表す否定語であることを理解させる。</p> <p>●短縮形の使い方を理解できているか確認する。I'm not ~ . とは言うが、I am n't とはならない。</p> <p>●文の最後が上げ調子に読まれていたら、Yes, No で答える疑問文だと、すぐにわかることを理解させる。</p> <p>●Yes, No で答えることのできる疑問文は文末が上げ調子となるが、そうでない疑問文は下げ調子となる。what, who を復習する際にもう一度確認する。</p>

② 疑問文の読み方

疑問文は文末を上げ調子に読む。

# 2

# This [That] is ~ . Is this [that] ~ ?

【主な学習内容】

◆指導ページ P.8 ~ 13◆

- ◎This is ~ . と That is ~ . の文→近くにあるものとはなれたところにあるものを説明する表現を学習する。
- ◎This is ~ . と That is ~ . の否定文の作り方。
- ◎This is ~ . と That is ~ . の疑問文とその答え方。→答えるときにはitで受ける。

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>1 This is ~ . / That is ~ . の文</b></p> <p>☆ <b>this と that の使い分け</b></p> <p>① 近くにいる人やものを指すとき… this(これ, これは)を使う。</p> <p>② はなれたところにいる人やものを指すとき… that(あれ, あれは)を使う。</p> <p>☆ 「これ(こちら)は~です。」の文→ This is ~ .          こちらは太郎です。→ This <u>is</u> Taro.  <small>こちらは です 太郎</small></p> <p>☆ 「あれ(あちら)は~です。」の文→ That is ~ .          あれは私の家です。→ That <u>is</u> my house.  <small>あれは です 私の家</small></p> <p><b>注意</b> That is は That's と短縮形で表すことができる。          That is my house. = That's my house.          This is は短縮形にできない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●that は比較的広い範囲(近くにあるものから遠くにあるものまで)を指すことができるが、ここでは、近くのを this、遠くのを that を使って表すという説明でとどめる。</li> <li>●this は「これ」、that は「あれ」と単数のものを指す代名詞なので、名詞には a(an) をつけて単数であることを明らかにさせること。また、名前など、数えられない名詞(不可算名詞)がくることもある。</li> <li>●問題を解く際は、短縮形を意識しておくよう指導する。</li> <li>●「~です」を意味する語が am, are, is の3つであり、主語によって使い分ける必要があることを確認する。</li> </ul>
<p><b>2 This is ~ . / That is ~ . の否定文</b></p> <p>☆ <b>be 動詞の否定文</b>→ be 動詞のあとに not をおく。</p> <p>① This is not ~ . (これは[こちらは]~ではありません。)          これは私のかばんではありません。          →This is not a bag.          This isn't a bag. (短縮形 isn't を使った場合。)</p> <p>② That is not ~ . (あれは[あちらは]~ではありません。)          あちらは私の友達ではありません。          →That is not my friend.          That's not my friend. (短縮形 that's を使った場合。)          That isn't my friend. (短縮形 isn't を使った場合。)</p> <p><b>注意</b> is not は isn't と短縮形で表すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●this や that は、時間的な距離感を表すときにも用いられる。  <b>例</b> this morning(今朝),                  this week(今週),                  that day(その日)</li> <li>●my や your, Tom's などの語が名詞の前につくとき、名詞が単数であっても a や an はつかないことを確認する。</li> <li>●短縮形 this's を使って This's not ~ . という表現はしない。</li> </ul>
<p><b>3 This is ~ . / That is ~ . の疑問文</b></p> <p>☆ <b>be 動詞の疑問文</b> → be 動詞を主語の前におく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ be 動詞 is を主語 this[that]の前に出す。</li> <li>○ 文末はクエスチョンマーク(?)にする。</li> <li>○ 文頭に出した is は Is とし、This, That は this, that にする。</li> </ul> <p>This <u>is</u> a dog. → Is this a dog?          That <u>is</u> a cat. → Is that a cat?</p> <p>☆ <b>Is this [that] ~ ? の答え方</b>→主語を it にして is を使って答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はい、そうです。→ Yes, it is.</li> <li>・いいえ、ちがいます。→ No, it is not.                  No, it's not. (短縮形 it's を使った場合。)                  No, it isn't. (短縮形 isn't を使った場合。)</li> </ul> <p><b>注意</b> 短縮形 it's          it is の短縮形は it's となるが、Yes, it is. の it is は短縮形にすることができない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●Is this [that] ~ ? の文末を上げ調子で読むことを確認する。Yes, No で答える疑問文は文末が上げ調子となる。</li> <li>●Is this ~ ? や Is that ~ ? の疑問文に対しては it で受ける答え方を理解させる。</li> <li>●この場合の it は先行する語句を指す代名詞(指示代名詞)であり、近く、遠くといった距離には関係がない。</li> <li>●Yes, it is. No, it is not (isn't). は Yes, it is ~ . No, it is not (isn't) ~ . を略した表現である。Yes, it is のあとに何が省略されているかを生徒にたずねることで、英文の理解を促すことができる。</li> </ul>



4

# I don't ~ . What do you ~ ?

【主な学習内容】

◆指導ページ P.20 ~ 25 ◆

- ◎一般動詞の否定文。
- ◎What で始まる疑問文と答え方。→一般動詞と what の組み合わせ方
- ◎or, this, that の用法。

学習内容	補足・留意事項など
<p><b>1 一般動詞の否定文</b></p> <p>☆ 一般動詞の否定文→主語 +do not[don't]+ 動詞 + ~ .                  ○ 動詞の前に do not[don't]を入れる。                  私は野球をします。 → I play baseball.                  私は野球をしません。 → I do not play baseball.</p> <p><b>注意</b> do not は don't と短縮形で表すことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般動詞の否定文は、be 動詞の否定文の作り方とは異なることを確認する。                      [生徒が間違えやすい例]                      私は野球をしません。                      × I play <u>not</u> baseball.                      ○ I <u>don't</u> play baseball.</li> <li>※一般動詞は be 動詞のように、疑問文で動詞を文頭に持っていったり、否定文で直接 not をつけることはできない。そのため、助動詞 do を使う。</li> </ul>
<p><b>2 What で始まる疑問文と答え方</b></p> <p>☆ 「あなたは何が好きですか(何を持っていますか)。」                  → What do you like[have] (～)?                  ○ 文の初めに What をおき、あとには一般動詞の疑問文が続く。                  あなたは音楽が好きですか。 → Do you like <u>music</u> ?                  あなたは何が好きですか。 → <u>What</u> do you like?</p> <p>☆ What do you like[have] (～)? の答え方 → I like[have] ~ .                  ○ Yes, No で答えずに、疑問文と同じ動詞を使って I like[have] ~ . で答える。                  かばんの中に何を持っていますか。 → What do you <u>have</u> in your bag?                  カメラを持っています。 → I <u>have</u> a camera.</p> <p><b>注意</b> What で始まる疑問文は文末を下げ調子で読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「あなたは何を～しますか。」という what を使った一般動詞の疑問文は、〈What do you + 動詞?〉の形で表すことを覚えさせる。このとき、疑問文の頭に what をつけるだけではないことに注意。たずねる対象となる目的語(名詞)はとる必要がある。</li> </ul>
<p><b>3 or を用いた疑問文と答え方</b></p> <p>☆ 「あなたは～が好きですか、それとも…が好きですか。」                  → Do you like ~ or ...?                  ○ たずねる内容によって一般動詞をかえる。                  あなたは音楽が好きですか。 → Do you like music?                  あなたは音楽が好きですか、それともスポーツが好きですか。                  → Do you like music <u>or</u> sports?</p> <p>☆ Do you like ~ or ...? の答え方 → I like ~ .                  疑問文と同じ動詞を使って答える。                  あなたはペンを使いますか、それとも鉛筆を使いますか。                  → Do you <u>use</u> a pen or a pencil?                  私は鉛筆を使います。 → I <u>use</u> a pencil.</p> <p><b>注意</b> Do you like ~ or ...? の文の読み方                  or の前を上げ調子、文の終わりを下げ調子で読む。                  Do you like music(  ) or sports(  )?                  上げ調子                      下げ調子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●in などの前置詞のあとの名詞も冠詞をつけたり、複数形にするなど数を明らかにする必要がある。  <b>例</b> in a bag(かばんの中に)                      in <u>the</u> boxes(箱の中に)</li> <li>●or のあとにくる名詞にも冠詞の a や an, あるいは my や your のような所有格をおくことを確認する。  <b>例</b> あなたはリンゴを持っているのですか、それともオレンジを持っているのですか。                      Do you have <u>an</u> apple or <u>an</u> orange?</li> </ul>
<p><b>4 this と that</b></p> <p>☆ this と that の用法                  ① this は「これは」のほかに「この～」という意味がある。                  これは私の絵です。 → <u>This</u> is my picture.                  私はこの絵が好きです。 → I like <u>this</u> picture.                  ② that は「あれは」のほかに「あの～」という意味がある。                  あれは私の兄(弟)です。 → <u>That</u> is my brother.                  あなたはあの少年を知っていますか。 → Do you know <u>that</u> boy?</p>	<p>☆ this と that の用法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「これは」「あれは」という意味の this と that は主語になる(独立用法)。あとには「～です」という意味を表す be 動詞の is がくる。</li> <li>●「この」「あの」という意味の this と that は名詞を修飾する(形容詞用法)。あとには名詞の単数形がくる。このとき冠詞の a, an, the はつけない。  <b>例</b> これは私の本です。  <u>This</u> is my book.                      私はこの本が好きです。                      I like <u>this</u> book.</li> </ul>